

# 日本地衣学会 No.115 ニュースレター

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次	写真館.....	425
	地衣に擬態するコマダラウスバカゲロウ / 原田 浩.....	425
	お知らせ.....	427
	地衣学会会長再任挨拶 / 高橋 邦夫.....	427

## 写真館 Photo Gallery

地衣に擬態するコマダラウスバカゲロウ / 原田 浩 (千葉県立中央博物館)  
*Larva of Dendroleon jezoensis camouflaging lichens/ by HARADA Hiroshi.*

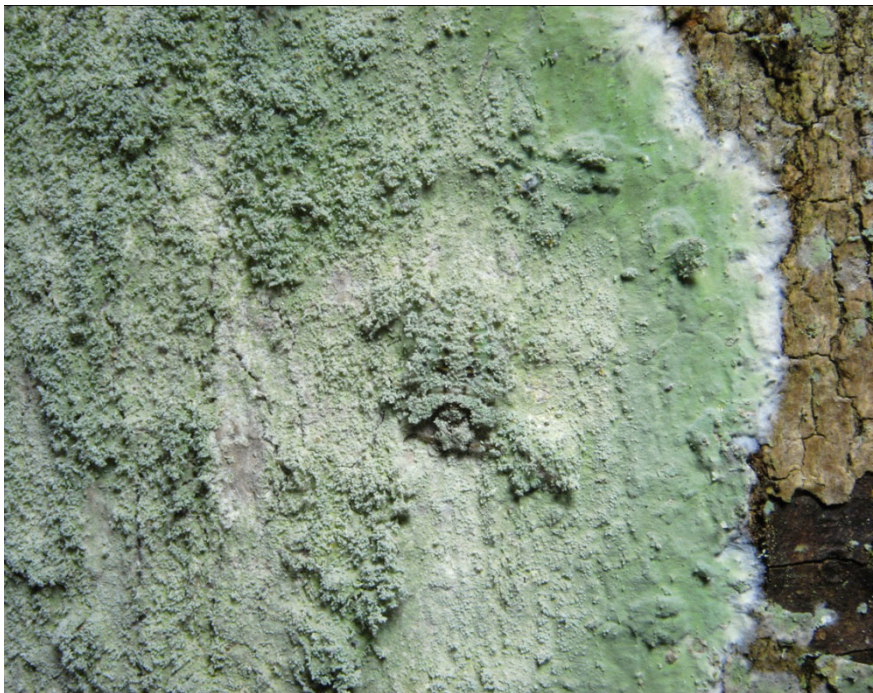


図1. 樹幹に着生する地衣類。そこに潜むのは？



図2. コマダラウスバカゲロウの幼虫だ。

2012年1月18日から19日にかけて、東京大学千葉演習林内で地衣類調査をしていた。2日目は南側の斜面を下る本沢（ほんざわ）の林道沿いの調査であった。演習林の車に乗せてもらい林道の終点付近で調査を始めた。沢に近い斜面に生えるタブの幹には、ゴフンゴケ *Herpothallon japonicum* に似た白っぽい痲状地衣の丸い地衣体が幾つか付いていた。その一つ(図1)には、何かが潜んでいた。

よく見ると(図2)、アリジゴクをずっと平べったくしたような昆虫の幼虫である。大あごを大きく広げて、通過する小昆虫をじっと待っているように見える。体の表面には住处としている地衣体の粉末をまとい、見事に擬態している。同じ木をよく見ると、もう一つの地衣体には2個体を見つけた。

翌日、クサカゲロウと地衣をキーワードにしてWebを検索してみると、それらしき昆虫(の幼虫)を見つけ

た。コマダラウスバカゲロウ *Dendroleon yezoensis* である。ふつうにみられるアリジゴクとは違うが、海外には地面にすり鉢状のトラップを作りアリなどを食べる正にアリジゴクのような種類もあるようだ。アリジゴクは英語ではantlion(アリ+ライオン)、本属の属名はDendro(樹木)+leon(ライオン)、木に棲むアリジゴクといったところなのだろうか。

地衣に擬態する昆虫としては、シラホシコヤガの幼虫を本誌67号(原田浩・大石英子、2006、本誌(67):238)で紹介しているが、地衣体顆粒のつき方など似ている。シラホシコヤガは地衣を食べているようだが、こちらは住处としているだけという点では異なる。

この昆虫のことについて、専門家に確認はしてもらっていない。間違いがあったらご教示いただきたい。

ついでに、東京大学千葉演習林について。

千葉県南部の鴨川市から君津市にかけて、東京大学千葉演習林が広がっている。ここは関東地方の低地では最も自然環境が残されしかも広大であり、昔から植物学者の間では、清澄山として有名な採集地であった。著者も1988年に千葉に来た当初から、県内では地衣類について最も期待していた場所であったが、シカ(最近ではキョンやイノシシも)が増えるのに伴って、ヤマビルの巣窟と化していたため、つつい敬遠していた。しかし、他の地域での調査も一通り進み、物足りなさを感じてきた頃であったので、いよいよ覚悟を決め、最後の砦、清澄山に向かったのは昨年2月からであった。

これまで千葉県内では様々な面白い地衣類が見つかり、発表してきたが、この千葉演習林、清澄山から、さらに新たなニュースをお届けできるのではないかと期待している。あせらず、じっくりと取り組む予定である。

調査では、千葉演習林のスタッフの方々にも多大なお世話になった。厚くお礼申し上げます。

会長挨拶／ 高橋邦夫（明治薬科大学）

Message from the President/ by TAKAHASHI Kunio

日本地衣学会第6期（2012 - 2013）会長に再任されましたので、ここで一言述べさせていただきます。

第5期の会長として2年間、初代会長吉村庸先生、前会長山本好和先生の後を引き継いで学会の運営にあたりました。これまでの学会の活動で、学会誌 Lichenologyの発刊、毎年開催されている大会、観察会やワークショップなどで多くの成果を上げてきました。これは役員および会員の努力が実を結んできたといえます。地衣学会の活動が大きく広がりをみせているわけですが、ここで組織をより強固にすることをこの2年間に行ってきました。

第1は、会員の見直しです。学生会員は、卒業と同時に退会する方もおりますが、その情報がじゅうぶん把握できていなかったため、Lichenologyの送付や、会費徴収にうまくいかないことがありました。このため、評議員会の了解を得て、会員数を実情に合わせるようにしました。現在会員数は、一般 108名、同（海外）17名、学生（国内）12名、同（海外）2名、団体 4団体、名誉 2名、名誉（海外）11名、有功 1名、計 158名です。

第2は、会計幹事が変わったため、会則の変更をしました。いままでの学会活動は、秋田県立大学山本好和先生の研究室の小峰正史さん（庶務幹事）、原光二郎さん（会計幹事）が、歴代の会長を支えて活動してきました。学会が大きくなりまたその活動が多様化していくなかで、多くの方が学会活動に参加していただく必要があります。いままで1研究室の中で行っていたものを、異なる組織の方々による学会活動の展開を図っていかうと考えました。そこで、会計幹事を木下靖浩さん（日本ペイント株式会社）としました。そのため、会則および内規の変更必要となり、評議員会で了承してもらいました。庶務幹事については、私の研究室の木下薫さんをお願い

し、業務内容の点検などをしてきました。本年度からは河原 秀久先生（関西大学）をお願いしました。これで、会長、会計幹事、庶務幹事が全て別組織の方により運営されていることとなります。後は1年を通じての幹事業務のスケジュールを現行の会則に従って細かく設定したマニュアルを作成していけば、業務の遂行がよりスムーズになると考えています。

第3はホームページです。秋田県立大学の原さんが立ち上げて、それを会員の皆さんとともに使用してきました。とても立派なもので、学会をアピールしてきたと思います。正式な部署が無く個人の努力に負っていましたが、ホームページ委員会としてこれからは協力者を募って内容を充実し、広報活動を展開していきたいです。

第4は海外との研究協力体制です。いままでも山本好和先生の努力で韓国や中国との研究協力体制が進み、日本地衣学会の大会で、海外の研究者からの発表も見られるようになりました。これを発展して日本、韓国および中国との国際シンポジウムを行うことにし、国際シンポ



ジウム委員会を設立しました。山本先生が委員長で、これからの展開に期待したいです。

今年度からの2年間は、この2年に行ってきたことを、さらに充実させていく努力をしていくつもりです。今年度は、以下の項目をしっかりと行っていきたいと考えています。

#### (1)大会について

大会の参加者は、この2年増加の傾向が見られます。今年度は早めに大会をアピールして、参加者を増やしていきたいです。そのためには早めに学会のホームページで案内をしていきます。

#### (2)会員数の増加に向けての努力

この2年間で、会員の見直しを行いましたので、2年前に比べて会員数が減少しています。これからは毎年5%増を目指して努力していきます。

#### (3)Lichenology

日本地衣学会の機関誌に、会員の皆さんの投稿をお願いいたします。1つ1つの積み重ねが大きな宝となります。

#### (4)ニュースレター (Newsletter)

会員の絆をつなぐのが「ニュースレター」です。会員の皆様の記事が、輪を大きく広げていきます。地衣類に関する記事を編集部まで送ってください。

#### (5)他組織との連携 (植物学会、分類学会連合)

本学会以外の学会でのシンポジウム開催などを通して、

学会の存在を広く宣伝していきたいです。

#### (6)国際シンポジウムの開催

本学会と国外との連携も重要な課題となってきました。第1回開催に向けて準備をしていきます。

#### (7)ホームページの充実、英文サイトの作成

ホームページは、学会の顔です。協力していただける方を募集します。ホームページをより良いものにしていきましょう。これからの2年間で、英文のホームページについても立ち上げていきます。

#### (8)地域活性化 (ワークショップ、青空地衣教室、観覧会)

この2年間で地域活性化委員会の活動は、大変素晴らしいものでした。引き続き活動を展開していきます。

#### (9)研究活動への支援 (学生、大学院生)

大会での学生および大学院生の発表を支援し、研究のモチベーションを上げるために奨励賞があります。指導している方は、積極的に応募してください。学会の活性化に大きくつながります。会員の皆様方には引き続き各分野でのご協力をお願いいたします。

今年度の日本地衣学会第11回大会は、筑波で松井敏也先生が大会委員長で開催されます。松井先生はじめ関係の皆様にご感謝申し上げます。

日本地衣学会第11回大会については、地衣学会ホームページにて案内がでていますのでご覧ください。

---

## ●複製される方へ

本誌に掲載された著作物を複製したい方は、許諾を受けてください。詳細は本誌 102号 378ページに。

## ●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see No.102, p.378 of this publication.

●*Newsletter from the Japanese Society for Lichenology*, no. 115, pp. 421-424: eds. Harada H. & Kinoshita K., published by *the Japanese Society for Lichenology*, 17 May, 2012.

---

日本地衣学会ニュースレター 115号

発行日：2012年 5月17日

編集：原田 浩・木下 薫

発行者・発行所：日本地衣学会

〒204-8588 東京都清瀬市野塩2-522-1

明治薬科大学・生薬学教室内

---

---

©2012 日本地衣学会 (©2012 The Japanese Society for Lichenology)

本誌記事の著作権は日本地衣学会に属します。無断転載・無断複製等は固くお断りいたします。